

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ピノキオの家			
○保護者評価実施期間	令和7年9月16日 ~			令和7年10月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	令和7年9月16日 ~			令和7年10月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年9月16日 ~			令和7年10月11日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	19園	(回答数)	17件
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	複数の職種が連携し、子どもの発達や園での姿を多面的に捉えながら支援できる体制が整っていることが強みです。	複数の立場・職種で連携を行うことで、幅広いアプローチを行うことができる。訪問前に通所支援職員からの聞き取りを行い、子どもの状況や見立て等について擦り合わせを行っている。	多職種が関わる強みを活かし、今後も職員間での情報・アセスメントの共有を継続的に図っていきます。
2	通所支援と訪問支援の両面からアプローチすることで、子どもの生活全体を見通した支援が可能となっています。	訪問支援の内容を共有することで、子どもへの関わりや保護者への対応など一体的にサポートすることができる。訪問前に保護者への聞き取りを行い、支援内容の報告や今後に向けた目標の共有を行っています。また、通所支援職員へのフィードバックも行い、一体的なサポートを図っています。	引き続き丁寧な情報共有を行うとともに、事業所内で訪問支援に関する理解を深め、保護者の思いに寄り添った支援ができるよう努めていきます。
3	保護者や園との信頼関係を大切にし、丁寧な情報共有と柔軟な支援調整を行っている点が事業所の特色です。	保護者との直接面談を基本とし、思いに寄り添いながら訪問前後にお話しできる時間を設けています。	引き続き丁寧な保護者とのやり取りを継続し、よりよい集団生活につながるよう、園とのつながりもさらに深めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援を専従で担う職員が限られており、時間的・人的な制約の中での対応が課題です。	事業所内での協議時間の確保が課題である。保育所等訪問支援の専従職員がいないため、各職員の業務量が多く、兼務業務の隙間を利用して会議等を開催している状況にあります。	現在の業務体制の中で可能な方法を検討し、訪問支援担当者と児童発達支援管理責任者との連携をより円滑に図ります。
2	訪問支援に特化した外部研修機会が少なく、支援の質を客観的に評価・向上させるための仕組みづくりが今後の課題です。	訪問支援としての質の向上が課題である。保育所等訪問支援に特化した研修制度が少なく、事業所としての現状を客観的に評価する機会が限られているといえます。	徳島市の保育所等訪問事業に係る連絡調整会議や発達支援センター連絡協議会など、地域の横のつながりを通して事業全体としての質の向上に努めます。
3	人材育成の面でも、継続的に訪問支援を担う職員の育成体制を強化する必要があります。	訪問支援を継続的に担える人材が限られており、人材育成の難しさを感じています。	時間をかけて丁寧なOJTを実施し、事業所内で訪問支援について学べる機会を設けることで、潜在的な人材発掘や育成につなげていきます。